

蒙訓
天然地理學
上

館藏書名古大日十
473
三册 號架函

第二卷

527
473



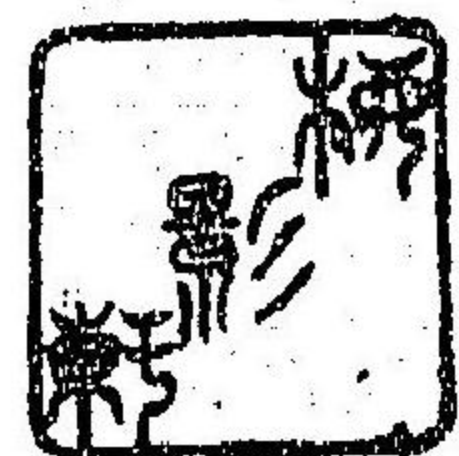
福

益

力

力

空島



天然地理學

凡例

此書ハ亞版コル子ル氏の地理誌より譯出せん、
あつりとりくども、往々他の地理誌或ハ理学書
の説を加へたる所あり、原書の説之を譯以
るに冗長ニ渉るが如きハ、少シ之を簡約ニせ
るもあれども、敢て原文の大意を失ハざらん、
を勉めたり

地名、人物の名の如きハ、漢字を借らばし、
片假

名を以て記さるる細亞墨利加の如き固より
 字義あるものあり、只音を假するのみなるもの
 其假字を書きて再び傍に 皇朝の假字を加
 するハ甚ど煩ハしきを以て有り、或るは死
 海喜望峰の如き義譯に至つてハ、猶漢字を用ひ
 たり、又英國佛國等の如きハ、イングラント、フ
 ランス國とつよよりハ、一ツツ簡便あるが故
 亦漢字を用ひ
 編中記さるる所の度量ハ皆原本の如くあり、我法

を以て改算するものあり、故に今茲に其比較
 を示し

- | | |
|--------|----------------|
| 寸 | 我八分三厘六毛三余 |
| 尺 | 我一尺〇〇三六六六余 |
| 里 | 我十四丁半十三間一尺三寸六分 |
| グレイン | 我一厘七毛三七余 |
| ポンド | 我百〇〇匁五厘九毛四二余 |
| トン | 我二百七十二貫三百八十四匁 |
| ホグスヘット | 我一石三斗一分三合六夕二二五 |

地名ハ左傍ニ——を加ヘ、人名爵名ハ右傍ニ——を加ヘ、各地方言の如キハ、
 之を以テ之を圍メリ

明治六年八月

鳥山啓識

天然地理學

目錄

第一章

總論

地の成分

地球の重量

第二章

水陸の分界

陸地の排列

大洲の形勢
陸地の形勢

山嶽

山嶽の斜面

山嶽の高度

山脈の方向

山嶽の功用

第三章

火山

火山の逆裂

火山の位置

火山の数

火山の功用

地震

地震の原由

地震の性

地震の類

第四章

高原

アシア洲の高原

エウロッパ洲の高原

アフリカ洲の高原

北アメリカ洲の高原

南アメリカ洲の高原

オーストラリア洲の高原

第五章

低原

アシア洲の低原

エウロッパ洲の低原

アフリカ洲の低原

北アメリカ洲の低原

南アメリカ洲の低原

第六章

荒漠

アシア洲の荒漠

アフリカ洲の荒漠

北アメリカ洲の荒漠
 南アメリカ洲の荒漠
 オーストラリア洲の荒漠
 谿谷及び峽路

第七章

嶋
 暗洲及び暗礁

第八章

水

水の成分及び性
 水の分類

泉水
 温泉水
 噴泉
 焰泉
 礦泉
 湖

第九章

河の源
水の源
河の流の速度
伏流
渡
水地
水源分流の地
河の口
潮河

第十章

河の大小
溝渠
大洋
洋水の色
洋水の鹹味
洋水の温度
洋水の深淺
洋水の疎密

洋水の平面
洋水の運動
潮汐

第十一章

洋流
洋流の原由
洋流の形状
海

第十二章

空氣の成分
空氣の色
空氣の高度
空氣の重量
空氣の温度
空氣の功用
風の原由
風の速度

第十三章

風の方向

風の切用

風の種類

恒信風

定期風

モンスンの原由

陸風及び海風

不定風

旋風

第十四章

水蒸気

雲

露

霜及び露

雨

雨の量

雨候

雨地及び旱地

第十五章

雪ゆき 雪線ゆきせん 氷原こりげん 雪崩ゆきかみ 雹あられ
 氣候きこう 氣候の分類きこうのぶんるい 同温線どうおんせん

第十六章

礦物くわくぶつ 金屬きんぞく 黃金くわんごん 白金はくごん 銀ぎん 鐵てつ 銅どう 精錫しやうしやく

金 錫 水銀

コバルト
砒石

アンチモニー及びビスマート

煤炭

光炭

硫黃

ビツキユメン
琥珀

第十七章

植物

植物の教

植物の分類

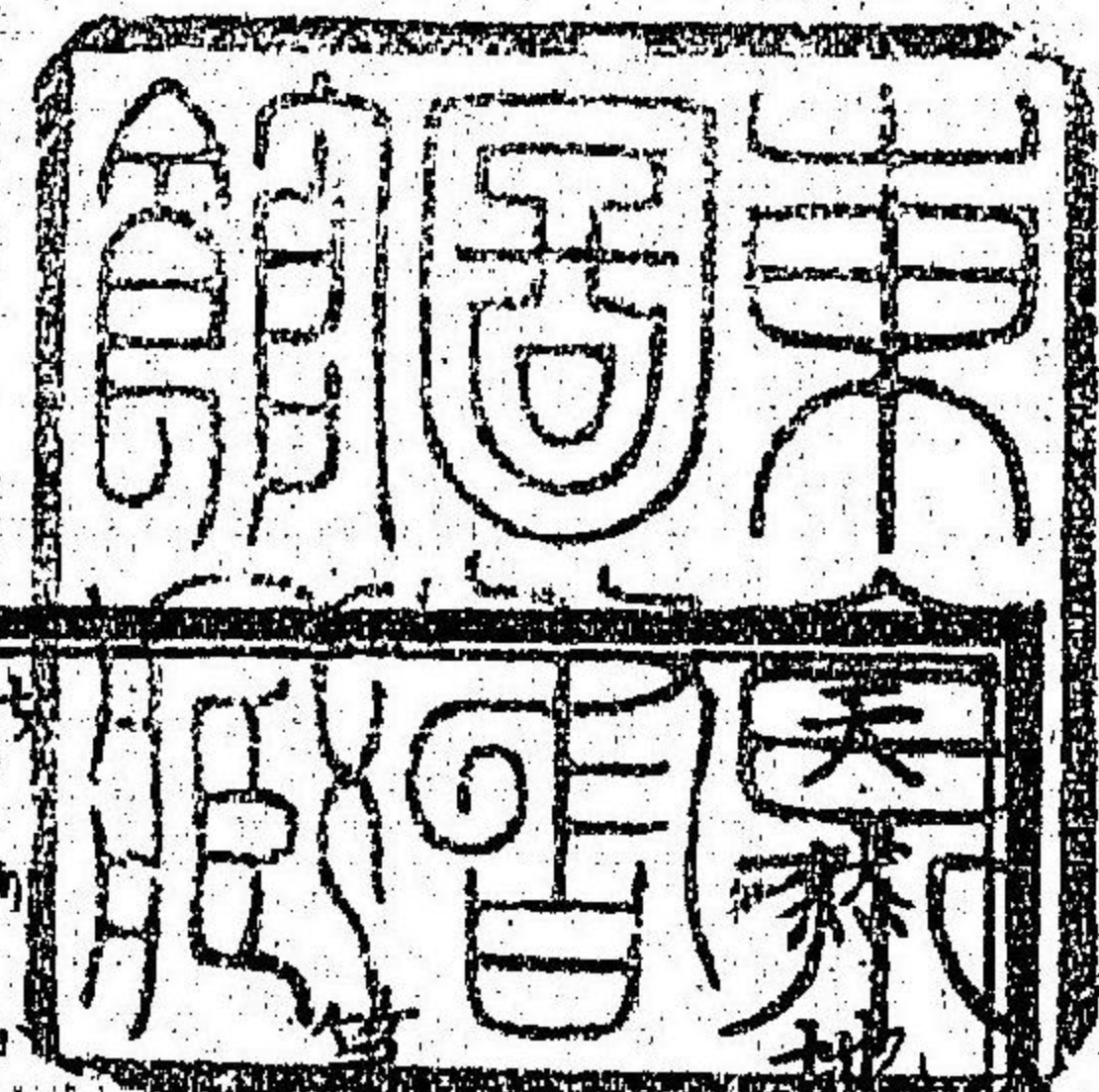
熱帯の植物

温帯の植物

寒帯の植物

地の高度に随ひて植物の各異
 動物
 熱帯の動物
 温帯の動物
 寒帯の動物
 地の高度に随ひて動物の各異
 人種
 言語

天然地理學目錄大尾



地理學卷之上

鳥山啓譯

第一章 總論

地理學三科に分てり、其一ハ天然地理學と云ひ、
 其二ハ邦制地理學と云ひ、其三を算數地理學と
 云ふ、今茲に鮮く所のものハ、天然地理學よりて、
 地球の成分を初め、海水、陸地、空氣、風、雨、人畜、
 鳥、魚、草木、礦石等を論じ、

地の成分

地理家一般曰ふ、地の内部に極めて炎熱あり、其質皆溶解せるを、其外面に其熱の冷るに依りて凝固して殻を生ざるあり、○最も深き礦坑といへども、僅に一里の三分一より下に至り難きが故に、実験を以て地の成分を知る者甚少なり、然れども、地面若くは地面に近く、地殻の層の突起せるを見て、十里以下地の成分を詳しするところを得たり、○地殻の層々自ら秩序ありて、

敢て其地位を錯乱する事あり、其諸層を汎稱して之を岩と云ふ、○岩即ち地殻分つて二類と為す、一を火成岩と云ひ、二を水成岩と云ふ、○火成岩は地心火の熱勢と、地殻上層乃ち壓力より成れるものなり、常は水成岩の下位にあり、然れども時として水成岩の上を在るを認る事あり、是ハ火山噴裂の時、岩石の溶解せるもの、下層より水成岩の上を流出して、凝固せるものあり、○水成岩は沙土、泥土、結晶諸体、或ハ沙石水の為は漂

様々なり、漸次は積重して成れるものなり、その
 諸層は或は堅硬あるあり、或は然らばして層々
 相重なりて其中は動物植物の石は化せるもの
 を含めり、○火成岩は其質結晶体にして、水成岩
 の如く層々相重なるを見、又動物植物の形跡
 を含めり、○水成岩を分つて三層と爲し、一を第一層
 岩と云ひ、二を第二層岩と云ひ、三を第三層岩と
 云ひ、第一層岩は地球上面に布く事最も廣く、凡
 そ諸高山皆その岩より成れり、この層は却つて

火成岩の如く動物植物の形跡を含まず、第二層
 岩は鳥獣虫魚の石は化せるもの、また草木の煤
 炭、木は化せるものを含み、事甚多し、第三層
 岩は石灰土泥土より成立して、鱗介昆虫鳥獣
 の化石を含めり、○花崗石、白斑紅石等の如き家
 屋造管の材料と爲し、石は火成岩より得るべ
 し、又磚石、粉石、ホノ如き家造の料と爲し、石
 は水成岩の出し所のものなり、諸塩類は礦山温
 泉より得るものなり、即ち水成岩より出るもの

係る、又石盤、諸金の礦金、大抵第一層岩より得べきあり、また煤炭、鉄砂、鉛、精錳の礦金の第二層岩中より於て認め得べし、また遊園子散布の砂、石硝子、磁器を鍊るべき沙土、磚瓦と為るべき泥土、及び耕種に要用ある沙泥混合する土、第三層岩の出し所あり、また家屋の用を供はるべき諸石、時あつて是層より得べし、○尋常の土は沙土、岩石の碎末より成立して、純土、礬石、泥土、シレキス、キ、ワ、ル、ツ、石灰、ソーダ、ポ、タ、ス、等を含有し、ま

動物植物の体質腐化するものを混合せり、

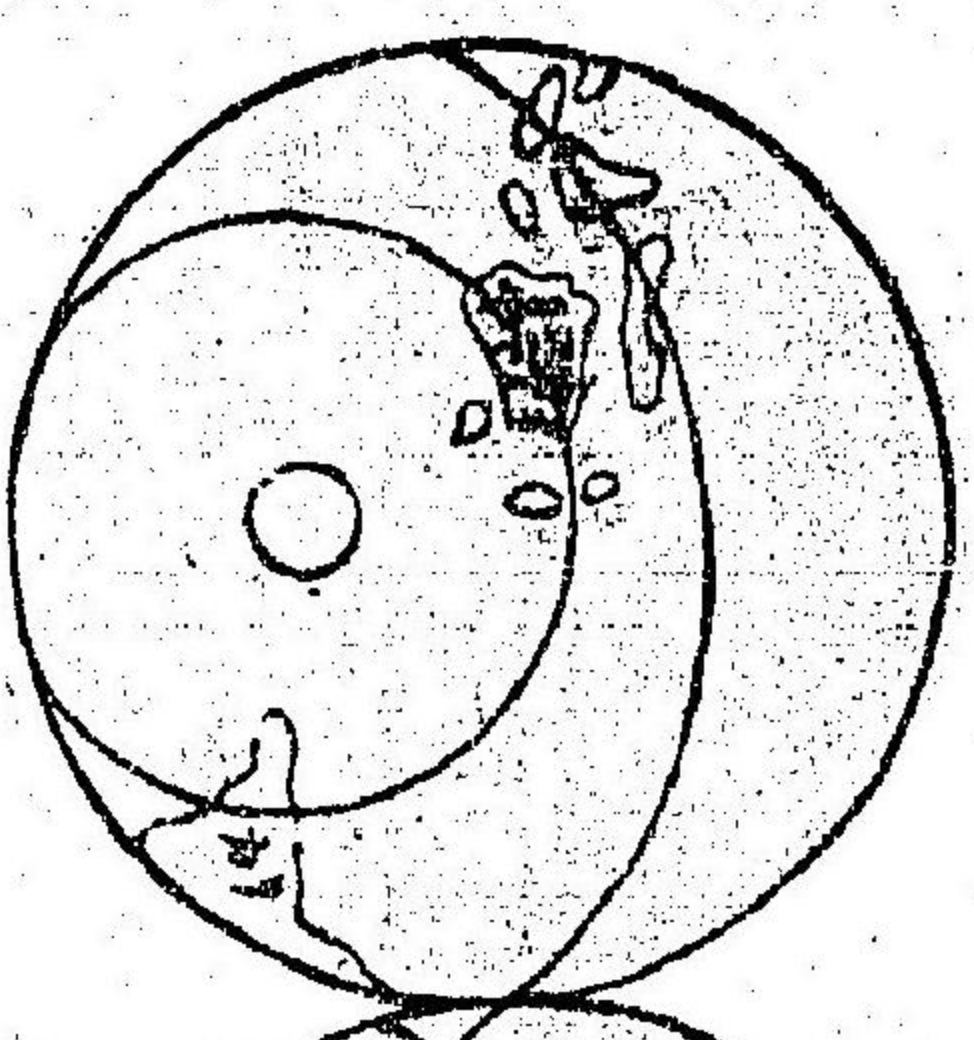
地球の重量、

水を以て地球と同等の球を造り、之を地球と比較せしめ、地球の重量は水の球より五倍あるべし、然れども地球の重量は、水より只二倍半あるべし、地球の重量は、中心の方より趣くは随ひて増加するものと知るべし

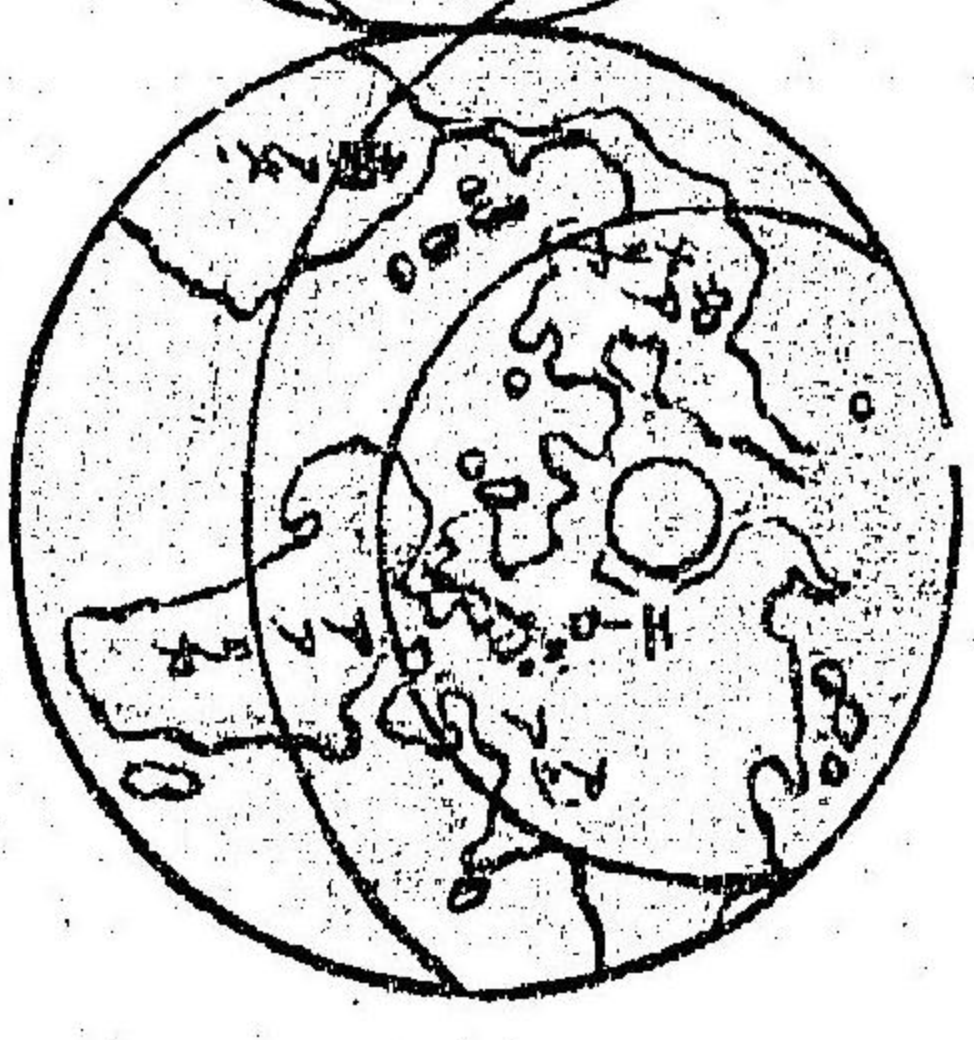
第二章

水陸の分限、

地球の外面凸凹あり、その凹處へ水之を浸して、
 その凸處を分界し、且之を圍繞せり、その水は覆
 へるく地之を大洋と云ひ、その水上は出る地之
 を陸と云ふ。○次は載る所の全地而半球の図に
 水陸分界の甚だ不平等なる事を示せり。○水陸分
 配の如く平等ありざるが故に、英國へ陸地聚合
 の中央に位をとり、其屬部ある新ゼーランドに
 其合跖の地は在て、却つて洋水渺茫の間にある
 あり、



水半球



陸半球

陸地の排列

陸地分つて二類とい、一を洲と云ひ、二を島と云ふ。○茲に大洲と唱ふるもの三區あり、其最も大なるものを東大洲と号し之を次ぐものを西大洲と名づけ、最小なるものを東南大洲といふ、

大洲の形勢

大洲の其周邊に海口、湾、港等より由つて屈曲ありと云ふ、其大抵の形状は殆ど三角形をなせり、即ち東西兩大洲皆その北邊海に面する部は

地低くして廣く且平らあり、然るに其南岸は岩石多くして、地高く、且其形尖鋭あり、○また東西二洲相對するの地、その屈伸互に相應するものも似たり、ブラジルの海岸は南アメリカ東邊突出の地あるは、大西洋を隔てて、アフリカ洲のイヤの湾は相對し、またアフリカ洲西方突出の地は、南北アメリカの中間あるメキシコ湾と、カリベン海とは相應せり、

陸地形勢

陸地外面の姿勢大いなる別あり、或は起つて山嶽と為り、或は開りて平原と為り、或は陥つて谷を為れ、

山嶽

允そ山嶽ハ、蜿蜒として相連するもの多し、之を山脉と云ふ、また衆多の山脉相聚るもの、之を合従山脉と云ふ、○允そ山其高さ一千尺を過るもの、初めて之を嶽と号し、千尺以下のものハ皆之を丘と唱ふ、○山嶽ハ平原中ニ獨立して、他の山

嶽と相連らざるもの甚ど少し、適之あるハ、大抵火山あり、○新ゼーランドのモンテ、エグモンテ、

ピーキオアテネライフ、ロックオアギブラルタル、

シ、リー島のエトナ山、小アジアのアラト山、

ハワイ島のモウナローハ、獨立山の適例あり、○

山の形状種々あり、とりつども、大抵次の図に示さるもの、如し、また山の形状の種々あるハ、専ら其土質に随ふもの、

山嶽の斜面

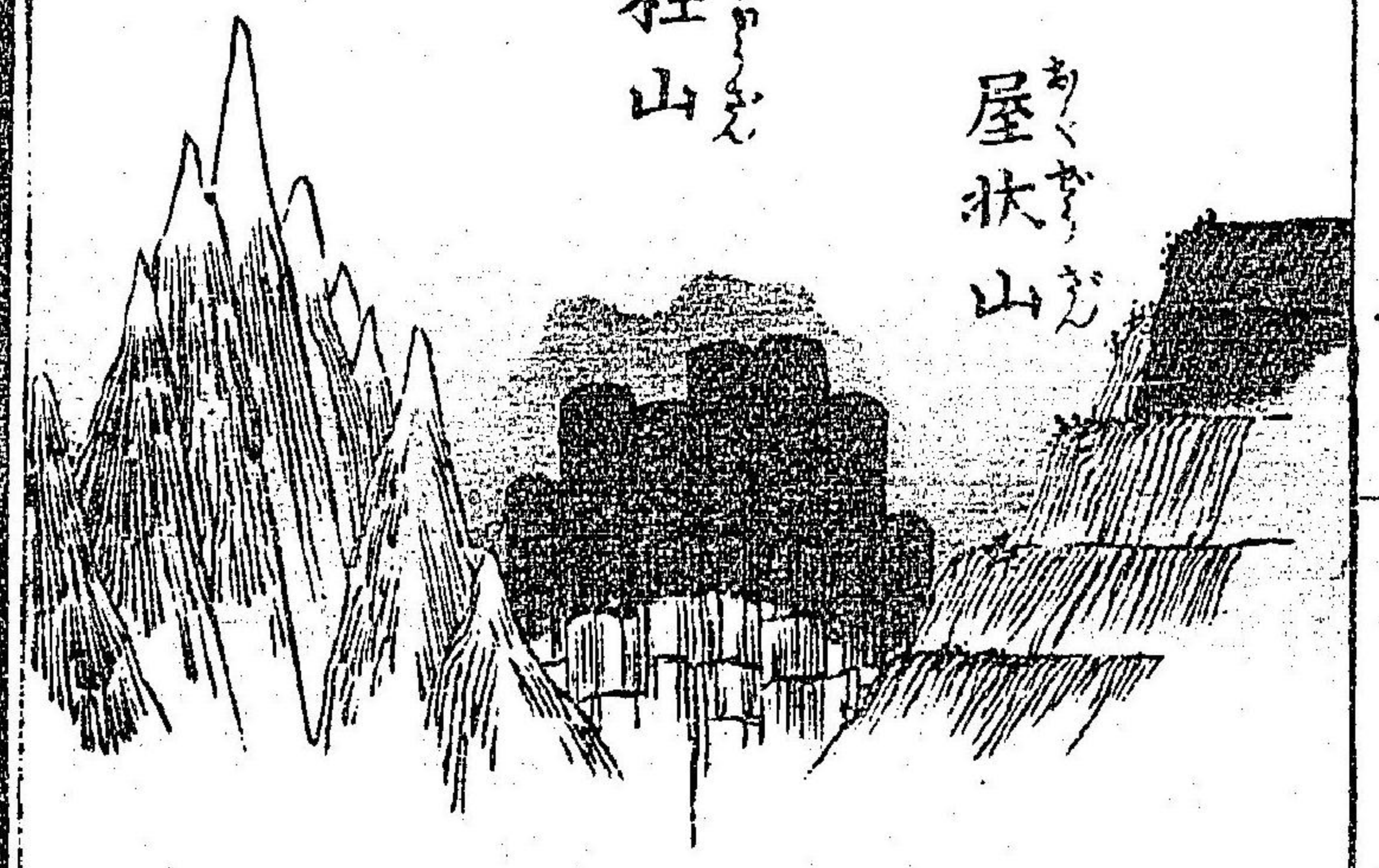
山脈ハ大約其一面ハ他
の面より峻あるを常ト

山嶽の形状

屋状山

田柱山

鋸齒山



田錐山

噴火山

穹窿山



ル、ロッキー山ハ其東邊の斜面最も延長ありといへども、其西面ハ然らば、アンデス山の西邊ハ海より此然と起立しといへども、其東邊ハ除々とて下り、東方の平原に至つてやむ、スカンヂナウアン山脈ハ其西北の面ハ峻ありといへども、其東南ハ然らば、ヒマラヤ山脈ハ北邊漸次傾下り、雖ども、其南方の面ハ甚だ峻峻あり、アタラ山脈ハ其大沙漠の方に向ひて、漸く傾くといへども、地中海の方を對せる面ハ甚だ峻あり、

ヒラ子ス山ハ其佛國を對せる方ハ、其スペイン國を對せる方ハ、如く峻あり、アルプ山ハイタリー國の方ハ、スウヰツェルランドの方より峻あり、○また舊世界アフリカを云ふに在つて、山脈皆北方ハ、南面の如く峻あり、新世界ハ、二洲をの山脈ハ、常々西面其東面より峻あり、○山嶽の斜面、其傾斜地平より七度若くハ八度に至るものハ、車之を登る事能ハば、十五六度不遇るものハ、荷を駕せる牛馬之を攀る事苦しむべし、

天竺地理學 卷之二

山嶽の高度

普天下の至高山ハヒマラヤ山あり、其高度ハ一
万六千尺より二万尺までの中數を取て定むと
いへども、諸峰中ハ二万尺より高きものあり
と云ふ。○各洲の最高山左の如し

- コンチンギンガ、アジア、二万八千百七十八尺
- モントブランク、エウロツバ、一万五千八百十尺
- キリマンドジャロ、アフリカ、二万尺
- シント、エリアス、北アメリカ、一万七千九百尺

東西亞ノ最高山ハヒマラヤ山、其峰ハヒマラヤ山、其高度ハ二万九千九百尺トス

- アコンカグア、南アメリカ、二万三千九百十尺
- オヒル、オセー、一万三千八百四十二尺

○山嶽ハ地球外面の上ニ甚高ク聳へたるが
如く見ゆと雖ども、全地球の浩大あるニ比較す
れば、其高度甚だ僅なり、天下の最高峰といふも
僅ハ五里余りして、地球半径の八百分の一のみ

山脈の方向

凡そ山嶽ハ連絡して、陸地の廣處を亘る者多し、
故ニ山脈の長き事常ニ其廣さニ比すれば甚だ

大いあり、舊世界に於て、アジアとエウロツパとの境ある山脉ハ東より西に走る、まゝ新世界の山脉ハ北より南に亘る、此の如く山脉ハ皆其洲の廣處を亘れり、又嶋國に於ても、大抵皆斯の如し、

山の功用

山嶽の巍々として屹立すはも、まゝ緑樹蒼々たる丘陵も、共小人目を樂しむる美景を供はす、只此のみならず、山嶽ハ雲霧を牽引して、其水を吸收し、常に之を貯蓄して、数百千泉水

の源とありて、田圃に注ぎ、之を沃美なりしめ、地殻の層を増加して、植物界に豊饒を与へ、金銀珠玉を産出する無盡の宝蔵あり、

第三章

火山

山嶽の頂或ハ其横面より、火焰或ハ煙を噴き、或ハ晶石の溶解せる熱汁を注射せるもの、之を火山と云ふ、火山或ハ泥土を噴出せるものあり、之を噴泥山と云ふ、まゝ硫氣ある水蒸氣を出はる

の之を硫氣山と云ふ、また水を噴く山あり、之を噴水山と云ふ、○火山三様あり、一ハ常火煙泥水を噴く、二ハ時々然り、三ハ已ニ其噴出を歇む、○リハリ島の火山ハ、常火焔を噴出する甚ど烈しく、且と雖ども、其光明曾て間断あり、故に地中海を航する海客、之を望んで燈臺の用ニ代換は、

火山の迸裂

火山迸裂の因て起る所以ハ、地心火の熱ニ由て、

地下穴隙の空氣若くハ蒸氣の膨脹より發一或ハ岩層の間ニ鬱積する越歴の振發をより起ると云ふ、

火山の位置

既ニ噴火する事を歇め、ハ火山、普天下の諸地ニあり、○アジア、アメリカニ於て、數火山の位置相應し、殆ど一條の帯の如きを認む、即ちベンガル灣のバールン島より起り、スマタラ、ジャワ、ヒリカス、サンダ島、ヒリッパイン、皇國、キリル

島

島ノレーバ灣ノルガン



カハチヤトカノ半島、アリトテ、島を貫きて
 走り、是より南に北アメリカのロッキー山、メキシ
 コのコルチレラス、中央アメリカ、南アメリカの
 アンデス、テラ、デル、フーゴ、島及びウクトリヤ
 ランドを通過し、○エウロツバ洲の南部及び近
 海の諸島悉く火山あり、此等の火山連絡の状へ、
 アゾール島より起り、北高海に至る、其北ハチロ
 レーン及びズイスアルプを限り、其南ハアフリ
 カ北境に至る、○エトナ、ヴェスヴェース、及びストロ

ムホリ等の諸火山ハ、方今地心火排泄の竅孔あり、○オーセニヤ諸島ハ、地火噴出の跡最も多シ、サンドウツチ島甚ど高き噴火山ニ座あり、また西インタア諸島ハ、今猶噴火せる山或ハ既ふ噴火せる事を欺めたる山數座あり、またヘブリテ
 ン諸島も、地火噴出の跡を見る事多シ、また地上常ニ積雪ある地方ハ、在て、火山あるハ、只アイ
 スランドのみ、此島ハ、三十餘座の火山ありて、其中八座の山ハ、百年内の近き年まで噴火せり

と云ふ、

火山の數

普天下火山の數、大約三百座ありて、其三分の二ハ島國ニあり、○新世界ニ於て常ニ噴火する火山ハ、大抵大洲の地ニあり、舊世界ニ在てハ、噴火せる火山島國ニ多シ、即ち左ニ掲る所の表を見
 て知るべシ、

各洲火山負數の表

アシア 大洲ニて十七座、島國ニて二十九座

エウロツバ 同 四座 同 二十座

アフリカ 同 二座 同 六座

アメリカ 同 十六座 同 二十八座

火山の功用

地球に火山あるは、猶火輪船の蒸気罐に活壓を備へたるが如し、蒸気罐活壓なき時、火度強き不遇れば破裂する患あり、地球火山なくば、地下小鬱積を越歴或は蒸気の散びる不道なくして、地殻を破壊する事甚どしきに至るべし、但

火山破烈して屢々人命を損ふ事ありと云へども、深く考へ遠く慮らば、少く損害あるの大

功あるを悟るべし、火山逆烈の害を蒙るは、僅に其近傍の地ののみならず、此發動ある所よりて地

の外殻を増加し、人種億兆の安全を得ざるむべき基を為し、のなる、まゝ其突起乃勢煤炭の産

出金属の蔓延を扶けて、世用不供はるもの不似

くり、乾燥せる陸地の外面に、空気或は湿気的作用不由て、碎けて砂土塵埃となり、まゝ嚴霜不

由て富士崩裂し川流波浪の滌蕩より岩礁の磨滅し之を突起せしむる者なくば大洲島嶼も終小相平らりたるに至るべし其の之を突起せしむる作用をみる所の地心火の功ある事疑を容るべからず

地震

火山と地震の相應はるものありて火山ある地へ必だ地震多し其發するや常小火山破裂の時先立て其歇むはす必だ火山破裂の後あり

地震の原由

地震の發するや地下の蒸氣膨脹して其勢殆ど汽輪船罐中の蒸氣其活壓をわし開くが如く自ら排泄すべき竅孔を求る時多少地面を震動するもの云ふ

地震の性

地震の強弱の差あり或は地面に尺少許の震動を起し或は其勢猛烈にして地を裂き山を崩し全都村落を覆没するに至るものあり地震乃

初めて動くハ一分時より長きもの稀あり然れども相續きて震動ゆるや其時間甚だ短きもの多し

地震の類

地震の揺動常不同おる其害を為しや震動の強弱小関するより地震動の種類小由るもの多し茲に三種の震動あり一を振動と云ひ二を浪動と云ひ三を旋動と云ふこの中振動の損害を為しや最も甚だしく然れども此類の震動

ハ發ゆる事最も稀あり

第四章

高原

高原ハ其地面平坦且廣濶にして海面上遙く高きものを云ふ高原ハ名テ「テーブルランド」アシア洲の高原

普天下小於てアシア洲の如く高原の最も高く且衆多小して且廣大なるものあり即ちアシアの中央の部に全地一の大高原にして大約三百

と中央の部も、大約高原ありて、其高さ海面を抽く事大約三千尺に至る、

北アメリカ洲の高原

ロッキーマウンテンの東に傍ひて、大約四十里の間、高原相連なり、其高さ二千尺より三千尺に至る、また、ロッキーマウンテンとセーラ子ウダの間なる、エータアの高原ハ四千尺より五千尺の高さに至る、また、メキシコの大高原ハ、北緯四十二度の地より起つて、テホアンテペカの地峽に亘り、其高さ四千尺よ

り五千尺に至る、また、中央アメリカのグアテマラとホンジュラスの平原ハ、メキシコ高原の南部まで連つて、高さ六千尺に至ると云ふ、

南アメリカ洲の高原

地球上に在つて、高原の最も高きもの此洲にあらず、クイトの高原ハ、赤道の南北に亘りて、其高さ九千尺あり、また、パスコの高原ハ、南緯十度と十二度の間にあつて、高さ一万千尺の上にあつて、ポトシの高原ハ、南緯十四度と二十五度の間を有

し、海面の上を抽づるごと、一万三千尺に至る
 オーストラリア洲の高原
 此洲ふ二つの高原あり、一は南岸あり、二は北
 岸あり、

第五章

低原

海面より只少し高き平地を低原と云ふ地
 不因ては海面より低き處あり、北高海及びアラ
 ル海周囲の地へ、洋面より八十三尺の低き居

る、死海近傍の地へ、洋面より一千三百十七尺の
 下不ありと云ふ、またジヨルダンの谷谷まで
 かくの如し、○平原といふもまた十分平坦ある
 能く、凸凹波浪の状をあらはすもの多し、

アジア洲の低原

アルタイ山より大西洋までの間シベリヤの全
 地一大平原ありて、大洋に近づくと随ひて、漸く
 低て、沿澤となる、其澤を土人トンドラと唱ふ、○
 支那の西北ヒンドスタンの地テカンの高原と

ヒマラヤ山の中間アラビヤとチルキーの東南
ベルシヤ及び不韃靼大平原あり

エウロツパ洲の低原

エングリス海峡より、ユラル山の下までの地即

ち佛國の北部ベルジヤ和蘭北ゼルマニー、デン

マルク、プロシヤ、ロシヤ、属部のホルランド、及び

ロシヤの全地皆平原あり。佛國のキロンテ河

とヒレニースの中間廣潤あり。沙原あり、灌木茂

生し、沼澤多し。此洲ハ猶衆多の平原あり。十ヶ

レス、ホンガリー、ロムバルヂー等の諸地ふあり、
このロムバルヂーの平原ハ、普天下の沃野あり、
て、産出のもの甚だ多し、

アフリカ洲の低原

アトラス山の下より、地中海まで、肥沃の平地あり、

り、まゝ上ゴイ子ヤ下ゴイ子ヤハ廣潤ある平原あり、

あつて、さゝ美地沃壤あり、

北アメリカ洲の低原

ロッキー山とアレガニー山の間、の廣原ハ、メキシ

コの湾より合衆國と英國屬部の間なる諸大湖
 水ふすで且、また此湖水より大西洋に至り、
 この平原二百四十三方里ありと云ふ。○この
 廣濶なる地ふ在て、甚ど高崇なる處ありと云
 ども、猶普天下二大河の地方と為る、即ちミシッ
 ピ河ハ、其支流數百を以て是地ふ流れ、シントロ
 ーレンスもまた廣濶なる湖水を以て、此平原の
 中ふ流る。○シツペリオル湖の北方ふ在て、少
 く高き一地この二大河を流の處とある。○此平

原の中央の部ハミッシッヒミソリーの二谷と共
 小、大約平坦なる草野あり、土人之を「ライリ」
 と唱ふ、此「ライリ」三類ふ分つ、一を叢原と云
 ひ野草灌木茸と云ふ、二を燥原と云ふ、水滙沿澤
 なきが故この名あり、三を濕原と云ふ、沿澤甚ど
 多し、○またアレガニー山と大西洋の間沿海の
 地、なる平原あり、山脉の海岸より退くの度不随
 ひて、其廣さ處々不於て等しう、
 南アメリカ洲の低原

此洲中央の部ヅ子ゾーラよりマゼレーンの海
 峡までの間ハ少く海面より高き平地あり此
 平原二帯の高處ありて三大河流注の地を分つ
 北方ハオリノコ河流れ南方ハレブラタ河
 走り中央ハアマゾン流る此諸河兩側平坦の
 地土人之を「ラノス」或ハ「セルバ」或ハ「バムバ」と稱
 べ、○アンデス山とオリノコ河との間の「ラノス」
 即ち平野ハ少くとせ二十五方里の廣さを占
 む此等の平原ハ實ハ殆ど平坦なれば兩候不至

れを、リオ子グロ河の水ハオリノコ河に合流し
 ま、アマゾンハカッシクイル河と相合はる不至
 る。○此平原ハ海面より、三百尺の高さ不到らば
 ○アマゾンの「セルヴァ」即ち林地ハ、アンデス山
 より、大西洋に至る此平坦の地殆ど全く密樹重
 林之を覆ひ、只所々不草地、沿澤の散在せるを見
 る。○バムバハ南緯九度十五度四十五度の間ハ
 亘りて、殆ど一條の帯の如し、この地ハ只草多く
 して木を生ぎ、或ハ沿澤ハ藤及び水草の茸々

くるあり、或ハ全原殆ど終年の間、薊草の繁茂す
 る地ありて、其薊草ハ大約八尺の高き小至るま
 で生長し、其莖相密接して、人をしつて入可うらざ
 らしむ、然る小暑天小至れむ、その吸收をべき土
 液竭きて皆枯凋し、其蒼緑の色を失ふ、然る時土
 人の「パンペロ」と名付る暴風起つて、その薊草を
 地小吹仆は、その後丁香草生出して、霎時の間小
 平原の景忽ち小一變はと云ふ、その「パンペロ」を
 往々沃壤ありといへども、草地多きが故、只牧畜

を事として、曾て之を耕はるゝの事

第六章

荒漠

常小水不置し、草木生長を遂げ、只灌
 木のみ、僅々小生びるを見る地、之を荒漠と云ふ、
 然れども、斯の如き荒地の間小、往々沃地の散
 在はるゝこと、猶洋中、小嶋嶼あり、如きものあり、
 て、泉水湧出し、緑樹繁茂して、沙漠炎熱の中を經
 て、疲勞あたる旅客をしつて、涼を納れ、渴を散し

此の如き地之を「ガジ」或ハ「オース」と云ふ

アシア洲の荒漠

コビの荒漠ハ此洲中央大高原の許多の部を占む、またヒンドスタン、ノイデア、アラビヤ、ペルシヤ獨立キルキスタン、及びアフガニスタン、の諸地ニテ荒漠あり、○ペルシヤの大塩漠ト号する地ハ、硬堅なる泥土ありて、其上面ニ塩華沸出たり、また處々ニ僅々の牧草を生ずる地ありて、蕪葎の如き鹹水ニ生長し、ぐまきの繁茂

あるあり、○アフガニスタンの荒漠ハ、水常ニ滋潤して、多量の塩氣を含めり

アフリカ洲の荒漠

此洲有名の沙漠ハ、サハラの大沙漠、リベイン漠、及びノビアの漠地あり、サハラの大沙漠ハ天下最大のものありて、其荒蕪最も甚し、この漠中ニハ湖水の淺きもの所々之有るも、皆諸種の塩氣を含む事多量ありて、田圃灌溉の用ニ供せざれば、その西部ニ石塩の礦坑ありて、純粹の

ものを産出は

北アメリカ洲の荒漠

ロッキー山脈の東邊に沿ひたる高嶺の地不廣濶

ある荒原あり、また其山とセーラ子ヅダ山の間

の地、大約うる不毛あり、

南アメリカ洲の荒漠

此洲にハカムボズバレキニスとアタカマの荒

漠ありカムボズバレキニスの荒漠ハ、バラグワイ

の水源近傍の地にあり、アタカマの漠地ハ千

の北にあり、

オーストラリア洲の荒漠

此大洲の内部ハ、大約不毛の沙原、沼澤及び草地

あるべき事を察せり、

谿谷及び峽路

山嶽若くハ丘陵の間ある地之を谿谷と云ふ、○

山國に在て廣く且深き谷あり、両山の位置に由

て、その方向差異あるより、谿谷を分つて二類と

為に即ち平行せる両丘の間を挟まぬ、その本

山脉の方向不随ふの之を縦谷と云ふ、其地勢本山脉の方向と平行を以て、外不向ひて走るもの之を横谷と云ふ。○凡そ谿谷峻峻なる山の間不在て之不入んと為る不其谷口甚ど狭隘ありて困難なるものあり、この谿間の道之を「ユエー」ン、「ゴアルジ」、「テフィル」或ハ「ハ」スと云ふ。○兩地の間ふ山ありて、其山間峽路の相通走べきもの所不随ひて其名異なり、アルプ山に在て之を「コ」ルと云ひ、ヒレ子ス山に在て之を「ホルト」と云ひ、

合衆國ありハゲート、例ハ、或ハ「バ」スと唱ふ。○ヒマラヤ山の峽路ハ、天下最高のものといひ、海面を抽く事五千尺より、一万九千尺までありと云ふ。また車路の最も高きものハ、「チア」ン「アルプ」ス山の「オ」ルト「レル」の峽路あり、アルプス山に車路を牽くべき峽路猶多し、大約四千尺より、七千尺の高さに至る、また徒行にありざれば踏べざる峻路尤も少し、斯の如き路ハ、候不由て驢不跨つて踏らるとあり、この峽路ハ大約一万一千

尺の高さもあり、○アデス山峡路多し、大約皆峻峻あり、ヴァルパライソより、メンドサに至る峡路ハ、一万二千四百五十尺の高さもあり、まことマよりパスヨに通じる峡路ハ、一万五千七百六十尺の高さあり、その水をアデス山路の最高なるものといふ。

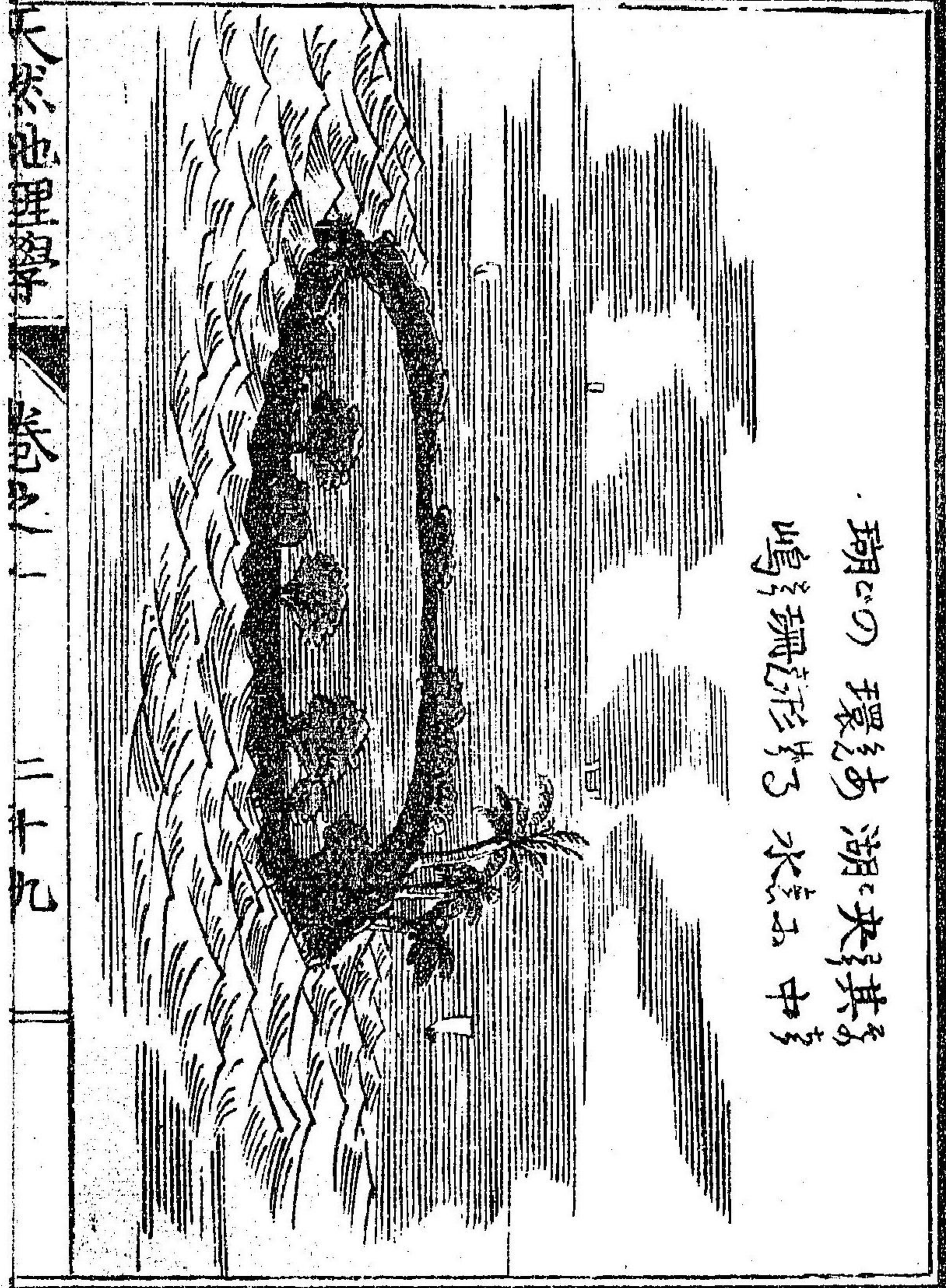
第七章

嶋

島ハ大洲を圍繞する洋水の渺茫たる中、小粟散

は、其大小形状位置高度各差異あり、或ハ単一なるものあり、並列するものあり、或ハ二三四五相聚するものあり、簇々として相聚するものあり、○嶋ハ海水の底より起る所の山嶽丘陵或ハ高原の巔ありて、其谿谷ハ皆水に没するものあり、○凡そ嶋國不合併山脉あり、谿谷川流あるもの之を小洲と云ふ、○嶋ハ小洲嶋と洋嶋との二類あり、洲嶋ハ大洲の近傍不在て其本洲との距離或ハその排列の序次或ハ形状の大小等、自ら其本洲不属するもの

の如く、その形状ハ皆延長ナリて、且その長さ
 の方向を以て、諸島相連属して、其本洲の山脉海
 中不出る状を示し、また洋島ハ大洲と相連属
 せざれば、別ニ洋水の底より起るものあり、地心
 の噴出より成るもの多ト、洋島ハ大約上ニ
 述べるが如く、地火の噴出不係るといへども、ま
 と珊瑚虫と名付る極めて細微なる動物の作為
 不出るものあり、此極微の虫ハ、珊瑚の數塊を造
 り、



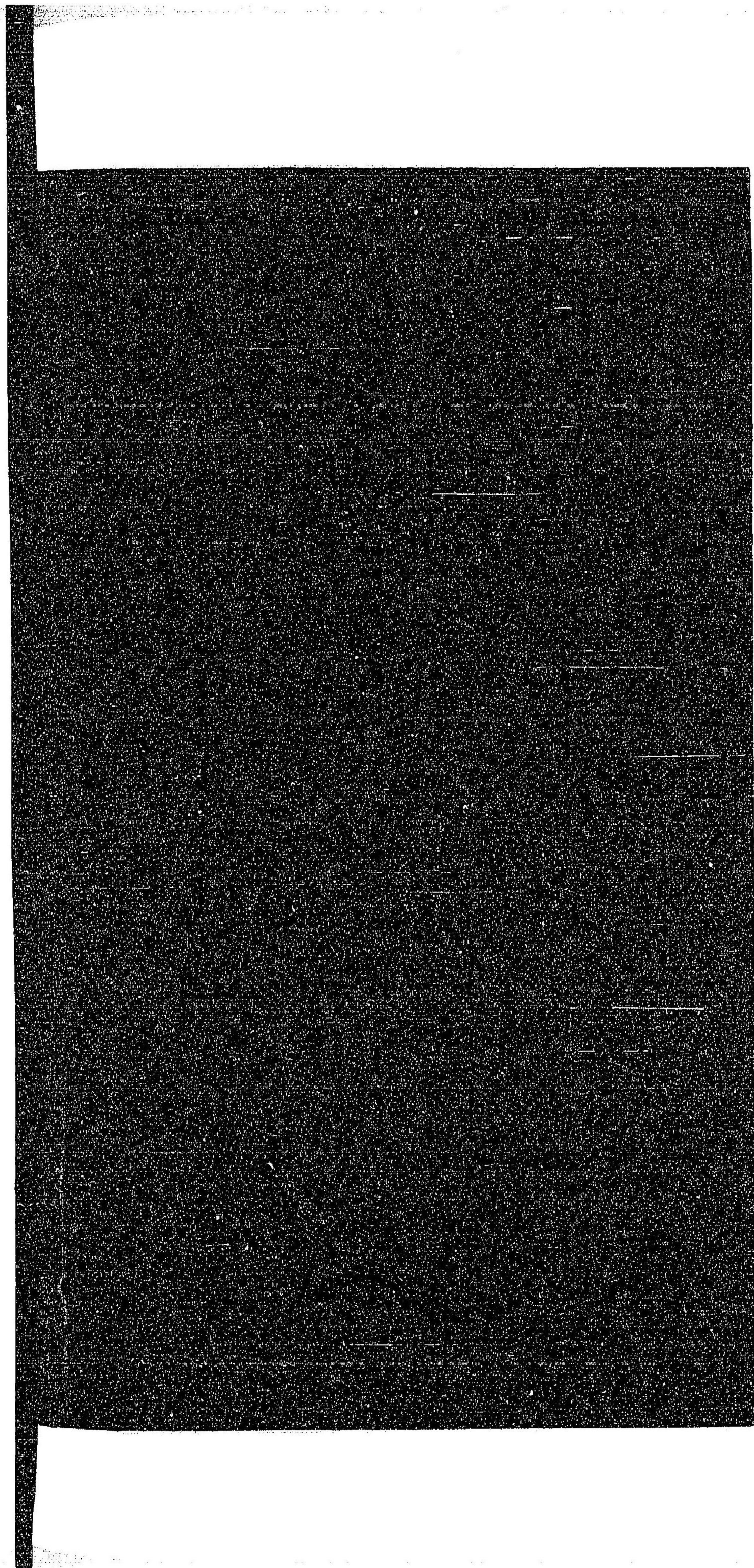
湖の環を其の
 鳴り珊瑚形する水の中

漸く數百里乃岩礁若くハ環形の嶋を為り至
 る、抑この微虫の海水中ハ舍む所の圭土を集め
 て、其巢を造るや、即ち所謂珊瑚あるものりて、
 其狀樹幹の枝を生じり如くして、其樹漸く
 相重つて岩礁となり、其高さ洋水の面ハ至れば、
 是より上ハ抽づる事能はば、只潮水低る時少
 く乾燥する程の高さありて、虫ハ其建築の業を
 停む、然る日熱ハ其乾燥する時ハ當つて、之を
 碎破し、波浪ハ珊瑚の枝條を折て、これを其礁の

上ハ揚げて、大潮の時ハ雖も没入せらるる
 高さとなす、然る時隔絶する諸國より、浮木海草
 流れ集りて、礁上漸く土を生じ、草木の種子
 波浪ハ由て漂着して、草木之ハ生長し、海鳥之ハ
 巢を結び終ハ人の之を領けり至るりのあり
 暗洲及ビ暗礁
 洋水の底より起れる山嶽の頂高く水面ハ抽づ
 る事能はば、常ハ潮水ハ淹没して、全く嶋の
 名を命ト難きものあり、其平坦ありて且廣きも

の之を暗洲と云ひ、また其岩石の並列するもの
之を暗礁と云ふ。

天然地理學卷之上終



特37
473
函架號册

第三千六百四十一號

056455-001-0

特37-473

天然地理学

鳥山 啓/訳

上

M6

CAL-0185

